



東鳴尾工区堤防強化工事始まる（浸透対策と拡幅矢板打ち）



尼崎東工区堤防強化工事（アキニレとキョウチクトウ伐採された）



砂州の砂を掘って遊ぶ子がいるらしい。



潜水橋上流側のウナギの寝床は無事



8号堰下流側に出来た大きな砂州にヤナギが定着しました。



甲武橋下の住民、太陽光パネルで電化。テレビのアンテナも

河口部の拡幅工事が本格化してきた。拡幅区間の矢板打ちの準備が始まり 43 号線橋梁上流側に広がっていた松林が柵に覆われ伐採されるのだろう。広い高水敷は西宮マラソンや各種イベントで利用されてきたが、イベント開催場所としては手狭になる。武庫川の景観を象徴する松林がなくなると思うが、精一杯景観に配慮した結果で止む得ない選択だったと思う。拡幅工事は潮止め堰付近まで達し堰撤去に向けた準備が着々と進んでいると感じられる。

仁川合流点の砂州を掘った跡や本川側の砂州にケルン状の石積みが見られ、この付近の河原が地域の子供たちの格好の遊び場になっていたり、暇つぶしやと照れながら掃除する方、小魚やカモを見に来る方の姿が見られ地域に親しまれていることが肌で感じられる。潜水橋上流側に仕掛けたウナギの寝床も健在で何か住み着いてくれると期待出来る。

8号堰下流側に点々と伸び始めた柳が象徴するように全体的に年々砂州が広がって行くように感じる。今は 1.5m 程度でも春に芽吹いたら相当目立った存在になるだろう。他河川と比べても急速に進む土沙堆積から暴川と言われる由縁が感じられる。甲武橋下に太陽光パネルにテレビのアンテナからここにも電気が届き定住化が進んでいる。

